国土学事始め

大石久和
京都大学大学院
特命教授

個人の努力で得られないもの

人はそれぞれ豊かで充実した人生を過ごせるように、いろいろと努力しています。資格を目指して勉強もするし、難関大学を突破してその後の人生を確実なものにしたいと思う人も、より高度な研究に励みたいという人もいます。

一生懸命働いて収入を増やし、身の回りを美しく飾ったり、洋服や持ち物にこだわりたい人もいることでしょう。こうした個人の努力によってそれぞれの人ごとに好ましいとする環境を得ることで、人々の「幸福」のかなりの部分は構成されています。

また、夫婦関係のように個人だけの努力では達成できない「幸福」もあります。友人関係や上司・部下との関係も同様ですが、相手を尊重し尊敬したりすることで、相手からの評価も得られて、その人間関係が作りだす「幸福」環境も大切なものです。

しかし、こうした自分や回りの人間関係からでは得ようのない「幸福」もあるのです。わかりやすいのが、家の前の街路の樹木が立派で美しいから「わが家の誇り」になっているとか、歩道が幅広く安全に歩けるから「安心して暮らせる」ということもあります。

上水道が家庭につながることでおいしい水をいつでも飲め、下水道が快適さをもたらしてくれます。道路がネットワークになっているから新聞も宅配便もキチンと届きます。

これらがもたらす「幸福」は、個人や少数の人間の努力で達成できるものではありません。「みんなが、みんなのために、みんなの力や金で行う」ことがなければ、達成できないものばかりですが、この公共の効用が認識しにくく忘れられがちなのです。

人々の暮らし（＝幸福）は、公共が提供するサービスを基礎に敷き、そのうえに個人の努力で獲得したものが組み合わさって成り立っていることを理解したいのです。